

②

日 月 送 受 號 番 先 議 合				欄 號 省 生 厚			
第 號 送 受 月 月 日 日		第 號 送 受 月 月 日 日		案 起 昭 和 十 七 年 一 月 八 日		判 決 月 日	
41				大臣 局長 次官			
				主 查 文 書 課 長 〆			
				事務官			
				局 課 受 付 月 第 日 號			
				行 施 月 日			
				月 日			

乙

裏面白紙

大日本帝國政府

司法部  
刑事局  
極秘第四號

昭和十七年一月七日

司法次官 大森 洪 太



厚生次官 武井 祥 嗣 殿

戰時刑事特別法案ニ關スル件照會

標記ノ法案第七十九回帝國議會へ提出ノ豫定ニテ閣議請求相成候ニ付  
テハ御意見有之候ハハ直接法制局へ御申出相成候様致度候

裏面白紙

秘

戰時刑事特別法案

司法省刑事局

(昭和十七、一、六刊印)

第一章 罪

第一條 戦時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生  
ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ火ヲ放チテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又  
ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、自動車、艦船、航空機若ハ機  
坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス  
前項ノ場合ニ於テ火ヲ放チテ現ニ人ノ住居ニ使用セズ又ハ人ノ現在  
セザル建造物、汽車、電車、自動車、艦船、航空機若ハ機坑ヲ燒燬  
シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス  
前項ノ規定ハ公共ノ危険ヲ生ゼザル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ  
第一項及第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一項又ハ第二項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタ  
ル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二條 前條第一項ノ場合ニ於テ火ヲ放チテ前條第一項及第二項ニ  
記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危険ヲ生ゼシメタル者ハ  
二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第三條 第一條第一項ノ場合ニ於テ刑法第百七十六條若ハ同條ノ例ニ  
依ル同法第百七十八條ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第百七十九條ノ罪  
ヲ犯シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處シ同法第百七十七條若ハ同  
條ノ例ニ依ル同法第百七十八條ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第百七十  
九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ傷害ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年  
以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス  
刑法第百八十條ノ規定ハ第一項ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條 第一條第一項ノ場合ニ於テ刑法第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ此等ニ歸スル同法第二百四十三條ノ罪ヲ犯シタル者竊盜ヲ以テ論ズベキトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役、強盜ヲ以テ論ズベキトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ屬ス

前項ノ場合ニ於テ刑法第二百四十條前段若ハ第二百四十一條前段ノ罪又ハ此等ニ歸スル同法第二百四十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ屬シ同法第二百四十條後段若ハ第二百四十一條後段ノ罪又ハ此等ニ歸スル同法第二百四十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑ニ屬ス

第一項ノ強盜ヲ爲ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ屬ス

第五條 第一條第一項ノ場合ニ於テ刑法第二百四十九條ノ罪又ハ之ニ  
關スル同法第二百五十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ  
處ス



第六條 戦時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂非ハ之ヲ罰ス

第一項ノ非ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一項ノ非ヲ犯スコトヲ教唆シ煽動シ又ハ幫助シタルニ止マル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第七條 戦時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ其ノ目的タル事  
項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ又ハ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタ  
ル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八條 第六條第三項若ハ第四項又ハ前條ノ非ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第九條 戦時ニ際シ防空ニ關スル官吏又ハ公吏ノ當該職務ノ執行ニ

當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處

ス

第十條 戦時ニ際シ刑法第百六條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス  
二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助クタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

戦時ニ際シ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルモ仍退散セザルトキハ首魁ハ十年以下ノ懲役ニ處

シ其ノ他ノ者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 戦時ニ際シ防空ノ爲ノ建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損  
壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公共ノ防空實施ノ妨害ヲ生ゼシメタ  
ル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十二條 戦時ニ際シ郵便、電信又ハ電話ノ用ニ供スル建造物、工  
作物其ノ他ノ設備ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公共ノ通信ノ  
障碍ヲ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十三條 戦時ニ際シ瓦斯、電氣又ハ蒸汽ノ用ニ供スル建造物、工  
作物其ノ他ノ設備ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ瓦斯、電氣又  
ハ蒸汽ノ公共ノ利用ヲ妨害シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ  
處ス



第十四條 戦時ニ際シ國防上重要ナル生産事業ノ設備又ハ其ノ用ニ  
供スル物ヲ損壞若ハ隠匿シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ效用ヲ害  
シ當該事業ノ遂行ヲ妨ゲタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十五條 前四條ノ木逐非ハ之ヲ罰ス

第十六條 戰時ニ際シ不正ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テ業務上醫藥品其  
ノ他衣食ニ關スル一般ノ生活必需品ノ買占又ハ賣惜ヲ爲シタル者  
ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコト  
ヲ得

第十七條 戦時ニ際シ刑法第百二十四條ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

戦時ニ際シ刑法第百二十五條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

戦時ニ際シ刑法第百二十六條第一項又ハ第二項ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第二項ノ罪ヲ犯シ因テ刑法第百二十七條ニ定ムル結果ヲ生ゼシメタル者亦前項ノ例ニ同ジ

第一項前段、第二項及第三項前段ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八條 戦時ニ際シ刑法第三百三十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下

ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九條 戰時ニ際シ刑法第四百四十二條乃至第四百四十四條ノ非ヲ犯シ

タル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ刑法第四百四十六條前段ノ非ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

戰時ニ際シ刑法第四百四十七條ノ非ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前三項ノ未遂非ハ之ヲ罰ス  
第二項ノ非ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二章 刑事手續

第二十條 本章ノ規定ハ左ニ掲グル罪ニ関スル事件ニ付之ヲ適用ス

一 第一章ノ罪

二 刑法第二編第一章、第二章、外國為替管理法、昭和十二年法律第九十二號（輸出入品等ニ関スル臨時

措置ニ関スル法律）國家總動員法（第四十四條ノ罪

ヲ除ク）、軍機保護法（第二條乃至第七條及此等ニ

関スル第十五條乃至第十七條ヲ除ク）、軍用資源秘

密保護法（第十一條乃至第十五條、第十九條ヲ除ク）、

要塞地帶法、陸軍輸送港域軍事取締法、軍用電氣通

信法、國境取締法、陸軍刑法第二編第八章及第九十

九條、海軍刑法第二編第八章及第一百條、大正十五年

法律第六十號（暴力行為等處罰ニ関スル法律）並ニ

不穩文書臨時取締法但レ此等ノ罪ニレテ外國ト通謀

レ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタルモノ

ヲ除ク

三 刑法第二編第七章ノ二、第三十六章、第三十九章、

盜犯等ノ防止及處分ニ関スル法律、防空法並ニ言論

出版、集會、結社等臨時取締法第十七條及第十八條

ノ罪



第二十一條 國防保安法第三十條及第三十二條ノ規定ハ

前條ニ掲ケル罪ニ関スル事件ニ付之ヲ準用ス

第二十二條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又

ハ抄本ハ機密ノ保持共ノ他公益上ノ理由ニ依リ裁判所

相當ト認ムルトキハ裁判所書記ヲシテ之ヲ交付セシメ

ザルコトヲ得

第二十三條 豫審判事ハ商工會議所其、他ノ團體ニ對シ  
必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

裁判所ハ公判期日前前項ノ團體ニ對シ必要ナル事項ノ  
報告ヲ求ムルコトヲ得

刑事訴訟法第三百四十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之  
ヲ準用ス

第二十四條 刑事訴訟法第三百三十四條ノ規定ハ第四條

ノ竊盜ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十五條 有罪ノ言渡ヲ爲スニ當リ證據ニ依リテ罪ト

爲ルベキ事實ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示

スニハ證據ノ標目及法令ヲ掲グルヲ以テ足ル

第二十六條 上告裁判所國防保安法第三十四條第二項

規定ニ依リ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ其ノ事件第二

十條第二號ニ掲グル罪ニ關スルモノナルトキハ檢事ノ

意見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スベキ旨ヲ言渡

スベシ

第二十條第二號ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル

第一審判決ニ對シ控訴院ニ上告アリタル場合ニ於テ當

該控訴院外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ

以テ國防保安法第十六條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタル

モノナルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノ

ト認ムルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ上告

裁判所タル大審院ニ移送スベシ

第二十七條 上告裁判所訴訟記録ノ送付ヲ受ケタルトキ

ハ速ニ其ノ旨ヲ上告申立人及對手人ニ通知スベシ

上告申立人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ

上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スベシ

上告ノ對手人ハ第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日

内ニ附帶上告ヲ為スコトヲ得

刑事訴訟法第四百二十二條、第四百二十三條及第四百

二十四條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十八條 上告裁判所上告趣意書其、他ノ書類ニ依リ

上告ノ理由ナキコト明白ナリト認ムルトキハ檢事ノ意

見ヲ聽キ辯論ヲ經ズシテ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スルコ

トヲ得



第二十九條 國防保安法第三十七條ノ規定ハ第一章ニ掲

グル罪ニ該ル事件ニ付之ヲ準用ス

第三十條

刑事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク  
ノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトス

第三十一條 第二十二條 第二十三條 第二十五條 第

二十七條及第二十八條ノ規定ハ第二十條ニ規定スル罪

以外ノ罪ニ關スル事件ニ付亦之ヲ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章ノ規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二章ノ規定ハ戦時犯罪處罰ノ特例ニ關スル法律ニ規定スル罪ニ關スル事件ニシテ本法施行後公訴ヲ提起シタル

モノニ付之ヲ適用ス

戦時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

戦時犯罪處罰ノ特例ニ關スル法律ハ之ヲ廢止ス

戰時刑事特別法案理由書

戰時ニ際シ燈火管制中又ハ人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ状態アル場合  
其ノ他戰時下特ニ公共ノ安寧ヲ阻害スル犯罪ノ豫防及鎮壓ノ爲應急  
措置トシテ刑罰ヲ加重整備シ以テ治安ノ確保ニ資スルト共ニ此等ノ  
犯罪ニ關スル事件ノ迅速ナル處理ヲ期シ裁判所構成法ノ戰時特別指  
置ニ關スル法律ト相俟チテ刑事手續ニ應急臨時ノ特例ヲ設クルノ必  
要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ